

平成30年3月16日

国土交通省東北地方整備局

小名浜港湾事務所

「相馬港沖防波堤」の 災害復旧事業が完了しました

国土交通省 東北地方整備局 小名浜港湾事務所では、東日本大震災により甚大な被害を受けた「相馬港沖防波堤」の災害復旧事業に全力で取り組んで参りました。このたび、3月15日(木)をもって復旧が完了しましたのでお知らせ致します。

相馬港沖防波堤(総延長 2,730m)は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、181函のケーソンのうち約9割の159函が転倒・傾斜する壊滅的な被害を受け、相馬港は静穏域確保のための防波機能を失うこととなりました。

国土交通省 東北地方整備局 小名浜港湾事務所では、相馬港の港湾機能の早期回復、なかでも被災を受けた背後の石炭火力発電所の早期発電再開等を支援するため、沖防波堤の早期復旧方策の検討を進め、平成24年3月から本格的な災害復旧事業に着手しました。

具体的には、本格復旧に先立ち、津波で散乱した消波ブロック等を活用した「仮防波堤」による限定的ながら静穏域の応急的な回復を行い、本格復旧では、設計条件を超える規模の津波でも壊滅的な被災をしない「粘り強い構造」を採用し、ケーソンの長大化(延長15m→20m)や複数ケーソンの同時据付けなどの急速施工による工期短縮にも取り組んでまいりました。

この間、関係する行政機関や民間事業者、さらに地元関係者等の協力を得ながら、災害復旧事業を強力に推進してまいりましたが、このたび、3月15日(木)に行われた沖防波堤前面の消波ブロックの水中部出来形確認の完了をもって直轄事業で実施した相馬港沖防波堤災害復旧事業が完了いたしました。

相馬港では、沖防波堤をはじめ港湾施設の復旧が進み、LNG 基地や隣接して LNG 火力発電所、鋼材加工会社などの立地が着実に進んでいます。また、相馬港の周辺道路整備も急速に進み、物流ネットワークが充実しつつあります。

引き続き、必要な港内静穏度向上策等を進めつつ、インフラの充実を地域の発展につなげていけるよう、地域とともに取り組んでまいります。

《別添資料》

別添資料1：相馬港沖防波堤の変遷

別添資料2：粘り強い構造による沖防波堤の本格復旧

<発表記者会>福島県政記者クラブ、南相馬記者クラブ

【お問い合わせ先】

国土交通省東北地方整備局小名浜港湾事務所 企画調整課 佐藤・青木

TEL:0246-53-7142 / FAX:0246-53-2912

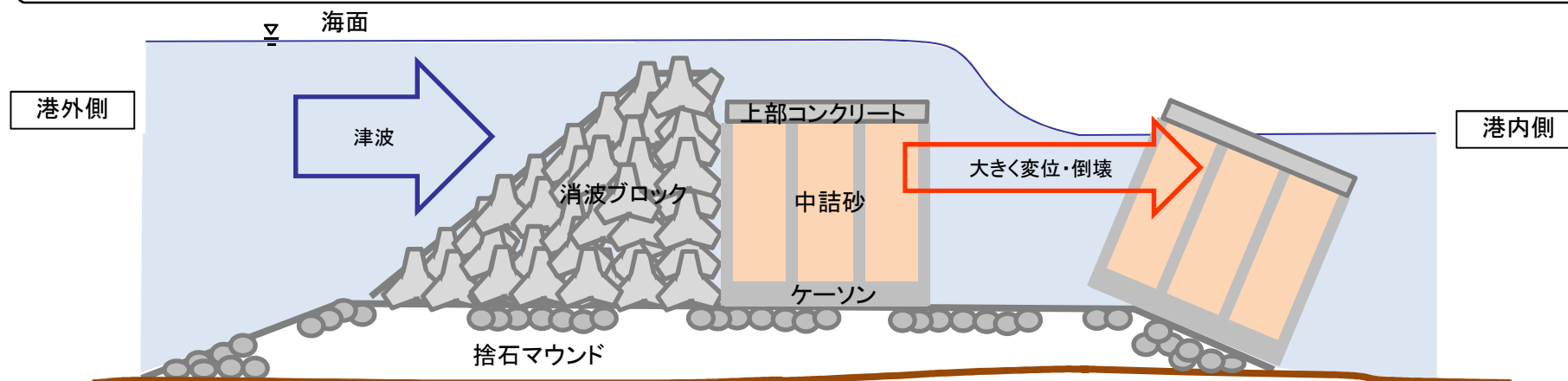
相馬港沖防波堤の変遷



「粘り強い」構造による沖防波堤の本格復旧

被災前断面

○設計条件を超える津波の力により防波堤が大きく変位、倒壊。



本格復旧断面【粘り強い構造】

- 新たにケーソン製作・設置にあたり、摩擦増大マット敷設による滑動抵抗力強化。
- 港内側マウンドの腹付けエ(盛石)による耐力強化。
- 上部コンクリートの形状を工夫することで防波堤を越流する津波の流れを変え、捨石マウンドの洗掘を防止。

